



環境保全米通信



合鴨の草取り発進!

夏号

2020年6月発行



登米市南方町の水田

【もくじ】

1. 環境保全米って、いつ、なぜ始まったのですか?
2. 2019年度の生き物調査の結果は?



アンケート大募集

応募者プレゼントも!

くわしくは最後のページへ!!



みやぎの環境保全米とは?
環境保全米県民会議とは?



みやぎの自然豊かな環境を守るために、農薬・化学肥料を宮城県の標準的使用量(※)の半分に減らし、自然と人間の力をあわせておいしいお米作りを行う。それが「みやぎの環境保全米」です。

そんな「みやぎの環境保全米」を広めるため、県内の消費者・生産者・マスコミ・関係機関・団体が一体となり2007年に設立されたのが「みやぎの環境保全米県民会議」です。

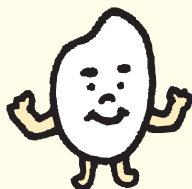
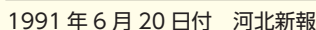
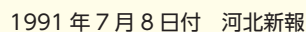
※宮城県の標準使用量

化学農薬 17 成分、化学肥料(窒素成分) 7kg/10a

コロナウイルスで皆さんも不自由な生活を余儀なくされていると思いますが、お元気でしょうか？今回の通信では、今年の環境保全米の生産者の元気な取り組みやアンケートでご要望のありました仙台市の環境保全米の授業実践、環境保全米を使った給食のメニューなどを紹介する予定でした。しかし、こうした状況では、移動もできず、学校もお休みで、取材が限定されました。そこで、今回は、皆さんの環境保全米通信の読者アンケートや県民会議のメンバーからのご質問を参考にして、「宮城県が発祥の『環境保全米』はなぜ始まったの？」を特集する企画にしました。最後に、生産者からの伝言です。「元気にお米を作ってます。」

みやぎの環境保全米は、今から 30 年前、ヘリコプターが水田に農薬を空中散布していたことが当たり前だった時代に、仙台市内の浄水場の水道水から農薬成分が検出されたことをきっかけに始まりました（新聞記事を参照）。河北新報社が、この状況取材して、「農業があまりにも農薬に依存しすぎていないだろうか」という問いかけをして、『考えよう農薬』のキャンペーンを始めました。

この『仙台宣言』を背景に、1996 年から『環境保全米』の栽培実験が始まり、1998 年から無農薬・無化学肥料栽培や減農薬・減化学肥料栽培（当時の表現）の『環境保全米』生産が始まりました。



それから、みやぎの環境保全米県民会議がつくられ、JA や県、企業、生協、スポーツ団体などの協力を得て、第三者が認証する減農薬・減化学肥料（当時の表現）等のみやぎの『環境保全米』の栽培面積が拡大していきました。

2011 年 10 月 16 日には、県民会議が「環境保全米宣言」を行い、地球や地域の環境を豊かにし、消費者にも生産者にも優しい「安全」「安心」の米作りを宣言しました。おいしい宮城の米を食べて、宮城の環境と農業を持続可能なものにするというアピールです。その結果、その栽培面積は、宮城県内の主食用水稻作付面積の約 40% にまで拡大し、環境に優しい米づくり日本一の実績を示しました。

20 年間の『環境保全米』の環境に優しい米づくりは、宮城県では「あたり前」となり、環境に優しい米づくりを進める生産者の熱意と工夫は、宮城のおいしい米づくりの技術を高めてきました。2017 年 12 月に宮城県大崎地域の「持続可能な水田農業を支える『大崎耕土』の伝統的水管理システム」が、国連食糧農業機関（FAO）の世界農業遺産に認定されました。このことは、宮城県で育まれてきた先人の知恵と環境に優しい農業や環境保全米の取り組みが高く評価されたことを示しています。

この地球と地域の環境を豊かにし、安全でおいしい環境保全米を作り続けるためには、みんながごはんを食べることが大切です。宮城県の学校給食で子供たちが、みんな環境保全米を食べて、宮城県のごはんに誇りをもって欲しいものです。消費者の食生活と生産者の米作りが、農業が密接に連携・協力しながら、安全でおいしい食料や地域の環境、生態系を育んでいきましょう。コロナに負けない健康づくりも、安全安心の日本お米が大切です。

賛社の
み紹介

JA全農みやぎ

安全・安心なお米

「みやぎの環境保全米」とは



みやぎの豊かな水と土を美しく保ちながら、自然豊かな環境を守るために、農薬や化学肥料の使用量を半分以上に減らし、自然と人間の力をあわせておいしいお米作りを行う。それが私たちの取り組む「みやぎの環境保全米」です。

環境保全米のメリット

- 水や土を守り、生き物を守ることができる。**
農薬や化学肥料の使用量を減らすことで、栽培している地域の環境（水・土など）への負荷を軽減させ、きれいで豊かな生態系の維持に貢献します。
- 安心・安全なお米をお届けできる。**
農薬や化学肥料の使用量を減らすことは、全国の消費者に、より安全で安心なお米をお届けすることにもつながります。
- 安定した食糧供給に貢献できる。**
健康に育った稲は生命力豊か。しっかり根を張り、冷害などにも負けない米作りを目指すことで、毎年安定して良質なお米をお届けすることができます。

環境保全米に関する取り組み



環境保全米づくりの一環として生き物観察を行い、みやぎの環境保全米への理解と、朝食欠食者増加の改善を図るため。

2019 年 12 月 16 日付 河北新報

写真は、JA 全農宮城が「百年の杜づくりあしたのみどりキャンペーン」に協賛して、新聞に掲載した「みやぎの環境保全米」のアピールです。

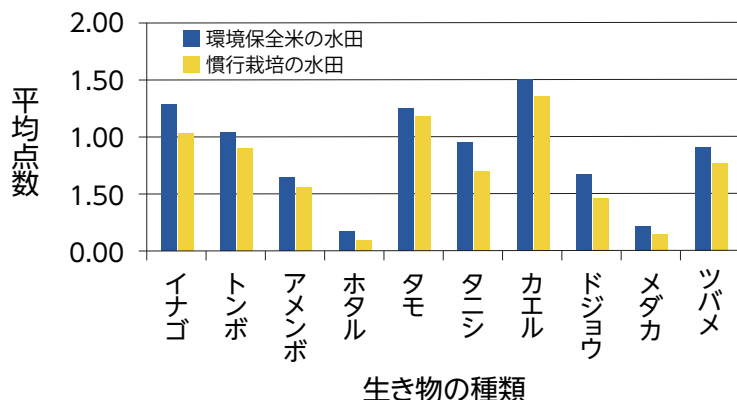
★環境保全米通信春号の記事へのご意見

「自分の子どもが通う学校でも、以前は地域の農家さんに土地をお借りして、さつまいもなどの野菜を作ったりしていましたが、農家さんの都合でやめてしまったりと、なかなか農業を身近に体験できることが少ないので、授業として学ぶ機会があるのは素晴らしいと思いました。」
仙台市泉区 S さん

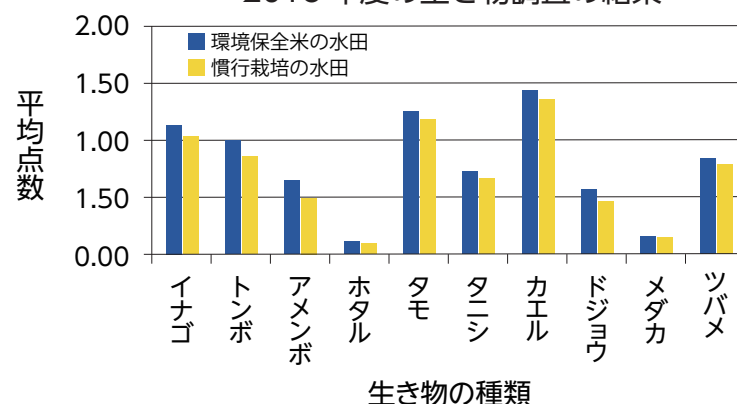
「温湯消毒。実際の様子が見られたり、やりかたが書いてあり興味を持った。」
多賀城市 A さん



2019年度の生き物調査の結果



2018年度の生き物調査の結果



上の図が、2019年の10種類の生き物の多さの平均点数で、下の図は2018年の結果です。棒グラフの青色が環境保全米の水田で、黄色は、慣行栽培の水田の調査結果です。昨年の夏号の報告について読者の方から前年との変化がわかるようにしてほしいと意見を頂きました。

2019年度は、昨年度の3,278の回答結果と比べて、4,154の回答と多くの生産者にご協力を頂きました。今年は昨年度と比べてほとんどの生き物で、平均点数が上昇しています。また、農薬使用量が慣行栽培の半分の環境保全米と慣行栽培の違いもはっきりしています。生き物の平均点自体は2013年以降少しずつ回復する傾向にあります。後継者不足や生産者の高齢化が進み、家族経営から大規模な農業経営に変化する中で、環境保全米作りが減少していますが、生産者の長い努力の結果があらわれています。農業の担い手が減少する中での環境保全米作りが一層求められています。

●前回の通信の訂正：環境保全米通信春号の「世界農業遺産の副読本」の記事に訂正があります。「冬水田んぼ」⇒「ふゆみずたんぼ」、「シナイモツゴ里の米」⇒「シナイモツゴ郷の米」、「鳴子のお米プロジェクト」⇒「鳴子の米プロジェクト」ご迷惑をおかけしました。

ご感想をお寄せください

アンケートにご協力いただいた方の中から抽選で、
環境保全米2kgを10名様に

Q1 興味をもった記事は？その理由も。

Q2 環境保全米への疑問や取り上げてほしいテーマ等。

●応募方法

次の項目をご記入の上、FAX・メール・郵送で応募先までお送りください。

・アンケートの回答 ・希望のプレゼント ・お名前 ・年齢 ・ご住所 ・電話(FAX)番号

いただいた回答および個人情報は当法人にて厳重に管理し、プレゼントの発送、または各種情報の提供、イベントの案内以外の目的では使用いたしません。

●応募締切

2020年8月8日 ※抽選結果は発送をもって代えさせていただきます。

●応募先

NPO 法人 環境保全米ネットワーク事務局

〒980-0011 宮城県仙台市青葉区上杉 1-16-3 JAビル別館 5F

TEL 022-261-7348 FAX 022-261-7488

Email okome@epfnetwork.org

URL <http://www.epfnetwork.org/>

環境保全米

検索

【アンケート記入例】

●アンケートの回答

Q1)-----

Q2)-----

●名前 保全米 太郎

●年齢 40 歳

●住所

〒980-0011

宮城県仙台市青葉区上杉
1-16-3

●電話番号

022-261-7348